

2014 年 11 月 7 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 谷本 寿男

フィリピン国ビジネス中心地区マストランジット建設事業
(協力準備調査 (有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2014 年 10 月 17 日 (金) 14:01 ~ 16:41
- ・場所：JICA 本部 (112 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：鋤柄委員、谷本委員、松行委員、村山委員
- ・議題：フィリピン国ビジネス中心地区マストランジット建設事業スコーピング案についての助言案作成
- ・配布資料：フィリピン国ビジネス中心地区マストランジット建設事業に係るスコーピング案事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン (2010 年 4 月)

全体会合 (第 53 回委員会)

- ・日時：2014 年 11 月 7 日 (金) 14:30 ~ 18:02
- ・場所：JICA 本部 (会議室：1 階 113 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 本事業に関連する他の事業・調査の現状での進捗および今後の予定について分かりやすく DFR に記載すること。
2. 本事業の上位計画である既存の「マニラ首都圏の持続的発展に向けた運輸交通ロードマップ」等で示された問題点・方向性のうち本事業に関連する部分ならびにその、上位計画における本事業の位置づけを整理して DFR に記載すること。

代替案の検討

3. プロジェクトエリア候補として選定された 10 のエリアの選定根拠を DFR に記載すること。
4. 選ばれた 10 の FS 検討対象事業については、交通需要等必要な項目の比較を行い、その結果を DFR に記載すること。
5. 本調査においては、CBD(ビジネス中心地区)と主要なマストランジット(Main Mass Transit: MMT) を効果的に接続する Secondary Mass Transit (SMT)により、CBD アクセスを向上させることに重点を置くとした根拠を DFR に記載すること。
6. 本事業が選定された理由を再整理して、特に下記の点に関して DFR に記載すること。
 - ・交通需要
 - ・南北通勤線と LRT2 号線のライダーシップ向上の重要性。

スコーピング・マトリックス

7. 雇用や生計手段等の地域経済における供用時の影響については、洪水時の本事業による鉄軌道交通の利用可能性を考慮した地域経済への影響も検討し、その結果を DFR に記載すること。
8. 事故について、この地域が地震のリスクが「高い」から「非常に高い」地域であることから、震災の際の事故への対応について検討し、その結果を DFR に記載すること。

環境配慮

9. 調査実施期間が短期であるため、大気汚染、水質について、可能な限り年間を通じた影響を把握し、その結果を DFR に記載すること。
10. 高架からの騒音の影響が、沿道建築物の階上家屋にもたらされる影響の程度を把握し、その結果を DFR に記載すること。

社会配慮

11. 住民移転計画案の作成支援においては、移転対象となる露天商の移転先での営業機会の確保により重点を置いた計画を検討し、その結果を DFR に記載すること。

ステークホルダー協議・情報公開

12. 報告書案についての会議の開催時期を再検討し、実施したステークホルダー協議の結果を DFR に記載すること。
13. 移転が必要な露店を代表する組織および露天商をステークホルダー会議の対象とすること。

以 上